

平成30年度 上田市立豊殿小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿	
心豊かで向上心を持ち、実践力のある子どもの育成	やりぬこう: 目当てを持ち、自分で考え、ねばり強くやりぬく子ども(知) つたえよう: 自分の考えを広め、友だちの考えを受け止め、互いに認め助け合う子ども(徳) くふうしよう: 自分で気づき、自分から動く子ども(情)	
	今年度の具体目標	
	1	豊かな心を育む
	2	子どもが学習主体になれる授業・学習単元作り
3	自主自律	

総合評価
<p>【豊かな心を育む】 道徳や特別支援教育の研究実践を通し、子ども達と共に時間をかけて相手への思いやりの気持ちを育んできた。行きつ戻りつすることはあるが、何度も自分の行為や思いを振り返り、友との考えの交流を通し、一人一人が視野を広げているように取り組んできた。キッズ活動やガンパルルームでの交流を通し、上級生が下級生に声をかけることや面倒を見ることが、日常的になりつつある。</p> <p>【子どもが学習主体になれる授業・学習単元作り】 NKB(ねらいを書く板書)を合言葉に、全職員が共通認識をもつことを大切にしてきた。今年度はさらに途中から小さめのホワイトボードを導入し、1時間の授業の流れが誰にでも分かるように示すことにも取り組んだ。それによって、自分から授業の準備をしたり、一つの活動が終わると次の活動に進んだり、自分で考えて行動する姿が見られるようになった。授業を自分たちで「つくる」という意識を育てていく必要性を感じている。</p> <p>【自主・自律】 児童会活動、学級の係活動では、当番活動を大切に位置づけることで、自身の責任を感じられるようになってきている。学習の発表の折にも「一人」での発表を大切にしてきた。地道に自信をつけていくことで、自主性をさらに育てていきたい。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	教科指導	基礎基本の定着	朝の教科学習の時間や家庭学習に学び直しを取り入れ、全児童の学力向上を図れたか。
		子ども主体の授業づくり	授業のねらいを明確に板書し(NKB:ねらいを書く板書)、ペア・グループ学習などを取り入れ、「子どもが主体的に学ぶ学習」を実践できたか。
		ユニバーサルデザイン化	教室の環境を整えたり、誰もがわかりやすい板書、授業の進め方を考え、実践できたか
		個への支援・特別支援の充実	個に応じた指導・支援・工夫ができたか。
特別活動・生徒指導	学校教育	さわやかな学校づくり	校内外での気持ちよいあいさつや靴揃えを実践できたか。
		心の学習の実践	人権教育・道徳・異学年や地域の方との交流等で、自他の良さを認め合う学習を実践できたか。
		キッズ活動・児童会活動の取組	異年齢集団の活動で、相手意識をもって、自らすすんで活動するよう支援できたか。
		教育相談	日頃の観察・相談・授業支援・アンケートを通して、悩んでいる子への理解と支援ができたか。
健康安全	学校教育	安全管理・危機管理意識の高揚	あらゆる場面を想定し、子どもが「自分の命は自分で守る」ために、考え行動するよう指導できたか。
		体力向上	体力テスト等で体力の実態を把握し、柔軟体操やバランスの良い運動と体力作りの実践ができたか。
地域などとの連携	学校運営	情報モラル教育の充実	適切な情報の取り扱いについて学ぶ機会を設け、保護者・児童のメディアリテラシーに関する意識を高めることができたか。
		保護者アンケートの実施	保護者からの意見・要望に対して、誠実に対応することができたか。
		豊殿小コミュニティスクール	地域と連携した取組や学校運営をすることで、子どもたちが学びを広げ深めることができたか。
		幼保小中連携事業の推進	スムーズな受け入れ、進学のため幼保小中連携事業を計画・実践できたか。
研修	学校運営	綱紀肅正、セクハラ防止等の取り組み	未然に防ぐための相談窓口の運営及び非違行為防止等の研修を実施できたか。
		自己研修	全職員が積極的に授業を公開したり、授業力向上のための研修を深めたりすることができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
<ul style="list-style-type: none"> 朝の教科学習の時間は金曜日の朝に定期的に位置づいてきた。 学力向上主任よりお便りが発行され、職員の教科学習・家庭学習への取り組み方の意識が高まっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級ごとの取組内容にやや差があるので、内容を全校的に決め出したい。 家庭学習の取組に個人差が見られるので、あきらめずに啓発活動を進めていく。
<ul style="list-style-type: none"> 板書はできている学級が多いが、まだすべての学級・授業でできていないところがある。 ペア・グループ学習についても、取り入れることが増えてきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教師主導型になってしまうことがまだ多いので、「豊殿小の授業スタイル」の構築をめざし、授業実践を積み重ねていく。 板書を写真に撮って積み重ねていくことを勧める。
<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業の流れを示し、次にやること分かる学級も出てきている。 授業の流れを「見える化」するために、全学級にホワイトボードを導入。 「豊殿小の授業スタイル」を思考中。「問い」をもつことを大切にする意識は出てきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードのより有効な活用方法を全職員で見出していく。 研究会で、自身の実践を語り合えるよう場を設けていく。
<ul style="list-style-type: none"> 支援員の先生と連携を取り、個に応じた内容ややり方で学習をすることができている所もある。 自分の居場所が明確になり、目標をもって学習や活動に取り組める子が多くなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1対1対応が多くなってしまっているので、合理的配慮がなされた授業のあり方を研究していく。
<ul style="list-style-type: none"> ガンパル応援団の皆様の積極的なあいさつにより、あいさつができる子が増えている。 6年生のあいさつがとてもよくなった。 廊下ですれ違う時の会釈、お客様への「こんにちは」も言える子が増えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童会の活動を重視しながら、子ども同士があいさつできるように見守る。 ガンパル応援団の方との連携をとり、いい姿が広がるように発信していく。
<ul style="list-style-type: none"> 水曜日の1校時を全校一斉に道徳の時間とし、実践を重ね、友達への声のかけ方や休み時間のかかわりに、温かさが出てきている。 ローマンうただ、ともいきライフ住吉の各施設様のご協力により、交流を深めている。 道徳学会主催の研究会で授業を公開し、多くの先生方から授業づくりへの示唆をいただく機会があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部の方との交流だけでなく、学級内の人間関係づくりにも重点を置いていく。温かな言葉がけが生まれるような人間関係の構築を進める。
<ul style="list-style-type: none"> 朝のキッズ活動の時間には6年生がリーダーとなり、どの学年もが楽しめる遊びや活動を考えており、1年生も楽しみに参加することができている。 キッズ遠足(10月10日実施)では、参加者全員が最後まで楽しむ姿が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な交流を積み重ね「やってあげる」という意識からの脱却を図りたい。
<ul style="list-style-type: none"> 11月に「相談週間」をしっかり取り、担任が児童一人ずつと話をすることができ、困っていることを聞き取ることができた。心の相談室やスクールカウンセラーにつながることができた。 Q-U検査を実施し、学校生活への満足度や困り感を具体的に理解することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分のことを話せる場所を、なるべく多くとれるように支援することが必要である。 相談週間はもちろん、日常の児童の様子を細やかにみることを大切にする。
<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画に位置づいている避難訓練や防犯訓練を通し、命を守るスキルを高めている。 突発的な自然災害時の対応にもう少し力を入れていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練については、いざという時動ける訓練を積み重ねる。 日常的な登下校途中の危険箇所を校外児童会の折に確認をし、自覚できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 体力テストでの実態把握は行うことができている。 全校運動の時間を有効に使い切れていない。継続的に全校運動を行うようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全校運動の年間計画を作成し、年間を通しつけない力がついていくような体制を整える。 体力テストは経年変化を見ていく。
<ul style="list-style-type: none"> 学校から発信する内容については十分に気をつけることができている。 低学年のうちからパソコンを学習に取り入れ、ICT支援員の力を借りながら情報モラルに触れることも行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に情報提供を行い、情報モラル教育への意識を高めていく。
<ul style="list-style-type: none"> 担任だけでなく、校長・教頭・関係職員で内容を共有し、よりよい方向を保護者の方と共に考えるようにしている。 アンケートの記述については、返答を載せた上で配付している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの要望や意見を気軽に書いていただけるような雰囲気作りを大切にする。
<ul style="list-style-type: none"> 棚田での活動、地域探検、読み聞かせ、学習支援、クラブ支援等、様々な機会に地域の皆様が子どもに向き合ってくださっており、子どもたちはふるさとについて考えたり意欲的に活動したりすることができている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学習をした後の発信の活動に力を入れていく。それによって、力を貸していただくだけでなく、ふるさとにお返ししていかれるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 特支担任及び特支コーディネーターが、保育園を訪問し園児の様子を参観した上で、移行支援会議を行っている。保護者の方とも、具体的な支援の方法や行事で気を付けることを話し合うことができている。 中学への進学に向けても同様にできている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> できる限り園や中学校へ出向いて、実際の姿を共有しながらスムーズな移行を目指したい。 保護者の方とも思いを共有し、児童が困らない支援を続けたい。
<ul style="list-style-type: none"> 職員会の折に、非違行為防止研修を行い、意識を高めることができている。 職員会のたびに、学校長から指導を受けている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 途切れることなく続けていきたい。 研修内容を工夫することで、温かな職場づくりにつながりそうである。
<ul style="list-style-type: none"> 1学期は積極的に授業公開を行い、授業研究会も行うことができた。2学期は外部に公開することも多かったが、そこで得られたものを積極的に本校内の実践に取り入れた。 研修に参加した職員が資料を回覧したり、講師となって他職員に伝達したりすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共有するには、「場」を設定することが何より大切である。 日々の授業づくりを第一にして取り組む職員集団を目指したい。

○ 評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった